

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 3月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200866		
法人名	有限会社サカコーポレーション		
事業所名	グループホーム ガーデンの家		
所在地	〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井7丁目5-11 (電話) 082-962-6541		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=34
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域住民の一員として暮らしていけるように、地域とのつながりを大切にしています。本人様の出来ること・したいことを継続できるよう「役割作り」に取り組んでおり、「ありがとう」という言葉を大切にしています。入居者様同士もひとつの家族というような関係で、お互いのできないことを助け合いながら生活しています。今年度より入居者様一人ひとりのメモリアルブック作成を始め、生活史を入居者様・家族様と一緒に聞き取ることで、ケアに活かす取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

同事業所の取り組みの一つに「メモリアルブック」の作成があり、利用者一人ひとり、生まれた時から現在まで、生活歴を職員が聴き取りながら、写真を張ったりコメントを入れる等して、その人の歴史作りを行っている。又、管理者を始め職員は、地域住民との関係づくりに積極的で、管理者の発案で、夏休みには事業所の場所を提供し、軽自動車程の大きさのビニールプールを3台解放し、更には親子が参加できる4mもあるそうめん流しを行い、利用者と共に楽しむ取り組みが成されている。そうした催しには、100名以上の来場が有り、同事業所は、地域に親しまれた存在になっている。又、最近起こった災害時には、母体医療機関は地域住民に風呂を開放したり、事業所は空き室を提供する等、地域への貢献度は高く、今後も継続すべく取り組みが成されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝礼時に理念の唱和を行い、倫理綱領等の研修でも理念の共有を行い、ミーティングでも、理念の下に話し合いを進めている。	運営母体のサカグループの運営理念「住み慣れた地域と馴染みの関係の中で、その人らしい人生と安らぎの有る生活」を管理者と職員は、その意義を理解しながら、実践に繋げるよう取り組んでいる。更に研修では、倫理綱領を読み合わせる等して、理念を共有して支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域交流行事等により、交流は行っているが、日常的な交流は、佐東公民館の活用や散歩等に留まっており、地域の方がもっと足を運びやすい工夫が必要である。	事業所は積極的に、地域のお祭り等の参加をしている。又、近くにある公民館の図書を利用したり、キッズコーナー利用者に声掛けして、来所を促し、交流している。更には、地域へ積極的に声掛けを行い、事業所が主催となり、近隣の親子を招き、様々なイベントを開催し、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	平成28年12月より、「ひるcafé」という家族様向けの定期座談会(毎月1回)をはじめ、平成29年度より認知症カフェとして運営していく予定である。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会や学区社会福祉協議会、民生委員、家族代表、利用者代表に参加していただき、取り組みの説明を行い、助言等を頂き、地域交流行事の開催や地域行事への参加には、ご協力を得ている。	事業所内に地域交流室を設置し、運営推進会議は定期的に利用者と家族を核に、地域住民や市町関係者、併設の小規模多機能事業所等の参加者で行われている。会議はパワーポイントを使い、資料も丁寧に作成し、報告・行事の確認・意見交換等が行われ、サービスの向上に活かした取組みが成されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	制度上の不明点の確認等は積極的に行い、地域包括の職員とも協力関係を築いている。	運営推進会議の報告は、その都度市町に提出している。又、家族から保険等の相談を受けて、担当の区役所に出掛け相談する等して、連絡を密に取りながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>建物に隣接して線路があるため、安全上玄関・エレベーターは電子ロックにて施錠をしている。その他は、研修等も行い拘束を行っていない。外に出たいという要望には職員が付き添いを行っている。</p>	<p>家族の了解のもと、玄関とエレベーターはロックしているが、その他はベランダの出入口を始めとして、利用者は自由に出入りしている。夜間対応も見守り重視で、グレーゾーンに対しても正しく理解し、運営母体での研修は全職員が参加し、内部研修も行いながら身体拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修等で虐待やグレーゾーンについて学び、職員間でも気になることがあれば、注意をし合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で学ぶ機会を設けており、必要時は、関係者と話し合いを行うようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約等の際は、管理者・ケアマネジャーが行い、できるだけ2人で対応し、理解してもらえるよう務めている。その後も適宜、不安や疑問点がないか尋ねている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営懇談会、家族交流行事、「ひるcafé」(定期座談会)や面会時に意見を伺い、施設運営に反映できるよう心がけている。</p>	<p>家族参加の運営懇談会や、交流会で、家族の顔を見ながら意見を聞く機会を設け、家族から「行事参加を希望するので、声掛けをして欲しい」と運営に参加の要望をもらい、反映に繋げている。又、「ひいらぎ」では月2回、喫茶の日を設け、会話の中で意見を聞き、運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングや個人面談等を活用し、職員の意見を、運営に反映できるよう努めている。</p>	<p>職員は意見や要望があればリーダーに相談し、それを受けてユニットで話し合いが行われている。更には管理者や運営母体は意見等を聞く機会を設け、反映出来る体制が構築されている。母体法人は資格取得や研修の参加にも負担金の支援を行う等、職員のスキルアップを支援している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の努力や実績を、月に1度、代表者へ報告し、代表者も職場を見て周り、職員へ声かけを行っている。法人としても、職場環境や条件についても、課題等の検討や変更を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人の方向性として、職員一人ひとりが望む外部研修に行かれるよう配慮している。内部でも研修を開き、知識や技術の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>城山北・城南地域包括支援センターが主となり、近隣の地域密着型サービスの集まりを開催し、それらへ参加している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時より、本人様にしっかりと生活歴や要望を伺い、本人様と職員の信頼関係の構築を図り、本人様が他の入居者様とも繋がれるように、職員が間に入るよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>各入居者様の担当を作り、担当が中心となって、家族様の不安に応えるようにしている。わかりやすい説明を心がけ、面会時等にも、関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様、家族様の小さな要望も何うようにし、必要なサービスを、ケアマネジャーが検討するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>入居者様もスタッフも家族の一員という意識で、炊事・洗濯・掃除などの家事行為を一緒に行ったり、お願いして実施している。入居者様同士でも声を掛け合い、お互いが助け合いながら生活を送っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族様と情報を共有して、行事等を通じながら、一緒に本人様を支援していく関係作りを行っている。遠方の家族様にも、毎月、お手紙やブログで近況を報告している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人様や家族様に話を伺い、関係が途切れないようにできないか検討はしているが、全ての人での実施は難しい状況である。</p>	<p>事業所は、メモリアルブックを作成しながら、利用者一人ひとりの生活歴が、現在まで一目で分かる取り組みを行い、そのメモリアルブックを活かしながら、利用者の馴染みの人や場所等、家族や知人の協力のもと、途切れない関係づくりに取り組みながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや家事行為を通じて、お互いが支え合う関係を作ってきている。日常的に、職員が間に入り、円滑にコミュニケーションが取れる支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も家族様へ行事の案内等を行ったり、その後の状況を確認したりしている。家族様からも連絡が入ったり、来所されたりすることもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や意向は、日常的に何い、実施できるよう検討している。こちらの都合になっていることもあるので、適宜見直しも行い、本人本位になるよう努めている。	日々の暮らしの中で、思いを把握し、記録も参考にしながら、土や花に関わりたい利用者には職員と共にベランダや裏の畑で作業し、楽しみの一つである食事内容の希望では、お刺身を食ったり、希望に沿える様支援している。困難な場合は、家族に相談し、代替案を用意し、出来る限り希望に沿えるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりのメモリアルブックの作成に取り組み、本人様・家族様から聞き取った生活史を1冊にまとめ、ケアに取り込もうとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの言動や、表情、行動の小さな変化に気付くよう努め、記録や申し送りを職員間で共有できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアマネジャーや担当が中心となり、適宜、話し合いを行っているが、話し合いの機会が遅くなったりしている場合もある。</p>	<p>モニタリングは月に1度行い、利用者の家族、必要な関係者が医療や介護の見直しの必要性を検討し、担当者やケアマネジャーが意見を反映しながら、介護計画を作成している。又、計画の実践が困難な場合は家族と相談し、短期目標を変更し、現状に即した計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録を大切に、小さな変化や気づきを共有するように努めているが、話し合いの機会が遅い場合があり、見直しに不十分な時がある。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>状況に応じて、本人様、家族様、職員で話し合い、対応策を検討している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>佐東公民館の活用はしているが、まだまだ地域資源の把握や活用まではできていない。散歩等を通じ、近隣の方や地域を知るよう努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人様、家族様の希望のかかりつけ医を受診してもらっている。受診時には適宜情報提供を行い、必要であれば付き添いも行っている。休日なども、当番医の受診や家族様に代わっての受診も行っている。</p>	<p>事業所は、以前より関わりの深い医療機関を大切にしており、利用者の殆どが利用前の主治医に係っている。基本的には、家族が通院に付き添うが、要望があれば職員が付き添っている。訪問看護は週1回で、必要場合は24時間対応がされ、その他の医療機関とも連携が取られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週1回の訪問看護の職員と連携を取り、適宜相談を行い、家族様にも報告し、ケアや受診に繋げている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院関係者や家族様と情報交換を行い、状態の把握や、退院時に必要な体制等の確認を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化や終末期には、医師や家族様とも話し合いを行っているが、事前の話し合いはできていない。事業所ができることを説明しているが、まだ、看取りの事例はない。	同事業所は、開設以来看取りの事例はないが、入所時には家族に重度化した場合の説明を行い、同意を得ている。職員は内部研修等を通して、管理者や看護師と話し合いを行い、チームで方針を共有しながら、支援に取り組む努力をしている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	研修やマニュアルの整備を行い、緊急時の対応をまとめたファイルも作成している。管理者や訪問看護との連絡体制も構築している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の消防訓練と、今年度は地震時の訓練も行った。地域との協力体制は、運営推進会議では協力依頼を行っているが、まだまだ不十分である。	同事業所は危険地域ではない、災害訓練は、利用者と共に地震と火事を想定して行われている。有事の際は、運営母体の医療機関や事業所の施設の一部を開放し、地域に対し何が出来るかを考え取り組んでいる。備蓄は母体法人に常に確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩であるという敬意を持って、接している。法人としても研修を通じて教育を図っている。	日頃から、利用者一人ひとりの人格を大切に、その人が歩んできた歴史を「メモリアルブック」を作成しながら、誇りやプライバシーを尊重し、支援している。日頃の言葉かけにも、自尊心を傷つけないよう取り組み、記録簿等の書類の保管にも気配りしながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人本位になるよう心がけており、選択する機会が持てるよう、意識を持って取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日その日で、体調や希望を伺いながら支援を行っているが、職員側の都合で我慢させている部分もある。強制にならないよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装も本人様と一緒に選び、髪の毛のセットや身だしなみに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けだけでなく、配膳時から献立について話をしたりしている。好みやリクエストについては、皆と一緒に作る機会を設けている。	食事の利用者はとても静かで、食べる事に一生懸命集中している。その結果、殆どの方が完食で、食後は仲睦まじい会話が弾んでいる。又、時には、お好み焼きの出前を頼んだり、喫茶店にケーキを食べに行き、花見時には外食も楽しんでいる。管理者は食べる事の楽しさに工夫しながら、アイデア溢れる食事に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一食を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事水分摂取表を毎日記録し，前日に少なかった方を，朝の申し送りで伝え，意識して取り組んでいる。飲み物等の好みも伺いながら提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食前に口腔体操を行い，食後口腔ケアの声かけや確認，介助を行っている。歯がある方に関しては，家族様に歯科の定期的受診を薦めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を確認し，本人様の排泄パターンを知ることから始まり，トイレでの排泄ができるよう，声かけや誘導を行っている。</p>	<p>事業所の開設にあたり，毎日に欠かせない排泄環境を重視し，全てのトイレにファンレストテーブルを設置し，取り付けも利用者の立場で行っている。排泄方法も家族と話し合いながら，排泄パターンを考慮し，自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分量に気をつけ，体操や散歩を一緒に行っている。薬についても，各かかりつけ医に相談し無理がないよう調整を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ある程度，曜日や時間は決めているが，本人様の体調や希望に合わせて対応している。入浴剤等も活用し，色(視覚)，香り(嗅覚)も楽しめるようにしている。入浴後も保湿剤を使っている。</p>	<p>入浴は午前と午後に，利用者の要望に合わせて行っている。基本的には週2～3回で，回数を増やしたい希望者にも対応している。又，入浴を好まない利用者には，風呂場に富士山の絵を張り，銭湯の雰囲気演出する等して，入浴してもらう工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律の消灯時間は設けず、状況に合わせて休んで頂いている。なかなか寝付けない方には、無理強いして臥床させず、傾聴するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診時にお薬情報の差し替えを行い、薬のセットや配薬や内服の確認をダブルチェックで行っている。臨時薬やお薬の変更時には記録に残し、症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	小さな事でも役割として、その方が出来ることを大切に、「ありがとう」という言葉を添えて、日々の生活を送ってもらっています。しかし、趣味を活かす場がまだまだ少ないと思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な散歩や買物、ゴミだし等や、季節的な外出の機会を設けている。家族様にも協力頂き、本人様の行きたい場所へ行ける支援を行っている。	午前、午後を問わず、散歩に出掛けたい時に職員と外出している。定期的には、家族と、かかりつけ医療機関へ受診の際、外食を共にしたりしている。その他個々の要望も、例えば、神田山荘の入浴を希望する利用者には職員が付き添い、出掛ける等して、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人様がお金の管理はしていないが、立替という形で、本人様の好きなものが買えるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人様の要望に合わせ、適宜、電話を掛けたり、お友達に手紙を出されたりしている。家族様へ年賀状を出して、家族様から大変喜ばれたこともある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節感のある飾り付けを、入居者様と一緒にに行っている。生活感と清潔が保てるようにしている。動線が危なくないよう、常には配慮している。刺激も少ないよう、注意を払っている。</p>	<p>J R線路の傍に事業所は有るが、室内は静かで騒音はない。利用者は皆で過ごすリビングルームが好きで、常に集っている。天候のよい日は、ベランダに出てお茶を飲んだり、季節には野菜や花の栽培も行っている。毎朝9時になると集まり、掃除機を使う人やモップを掛ける人等、楽しそうに行っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テーブルの席やソファの位置を適宜見直し、一人ひとりがくつろぎやすいよう配慮している。利用者様同士が、交流や独りの時間が作れる様、声かけを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>新しい家具を購入された方もいるが、自宅にあった小物などを置き、居室の配置についても、なるべく自宅に近づけるように工夫している。</p>	<p>居室の窓は、胸の高さから大きく開放的で、日差しがよく差し込んでいる。本人や家族の思いが詰まった部屋はじゅうたんが敷かれて、使い慣れたタンスや小さめのテーブルに座布団と、自宅を思わせ、居心地よく過ごせる工夫がある。居室はその人に合った道具が置かれ、それぞれに味わいがある設えである。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>家事全般を一緒に行いながら、一人ひとりができることを継続できるよう、声かけや物の配置に工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームガーデンの家

作成日 平成29年度5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域交流行事等は開催をしているが、地域の社会資源の活用がまだできていない。	地域の社会資源を活用する。	・社会資源の把握 ・ボランティアの活用 ・地域の集まりへの参加	1年
2	6	家族様同士が交流できる場が少ない	家族様同士が交流できる場を作る	・ひるcaféの参加を促し、定着させる ・各ユニット毎の家族様交流行事の開催	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。